

英語における言語発達について

「英語学習者」とは、英語を母国語とせずプリスクールにおいて初めて英語という言語に出会い習得しようとしている生徒から、すでにある程度の英語力を備えた生徒までを指します。お子様の母国語における言語発達や識字能力（読み書きをする力）が第二言語の能力開発にとっても大変重要なことです。お子様の今後の英語学習について親としていろいろな角度から期待される中で、この原則をまず認識していただきたいと思います。

最近の研究で二カ国語を同時に学ぶ事が、言語を記憶し注意喚起する脳組織の密度を増加させる事がわかりました。（Mechelli and others 2004 より）。以下の情報はカリフォルニア州教育省プリスクールラーニングファンデーションより要約されたものです。

ほとんどあるいは全く英語がわからずプリスクールに入った生徒は、第二言語としての英語を習得する上で大抵いくつかの段階を踏みながら習得していきます。

第一段階 学習を始めて間もない生徒は、家庭で家族と話している言語を使って教師や友人との意思伝達を試みます。徐々に、教師や友人が自分の話している事を理解していない事に気づき、新しい言語環境に適応する必要性を感じるようになります。

第二段階 生徒は（ある生徒は何日間か、また別の生徒は何ヶ月間かの）時を経て、積極的に注意深く観察し、言葉少なではあっても英語という言語の特徴を理解し始めるようになります。このような観察期は、第二言語を学習している生徒によく見られます。彼らは拒絶している訳ではなく、周りに存在している言語の相互作用活動に自分の関心を向けているのです。一般的にこの時期の子供は、言葉によってではなくジェスチャーや顔の表情で意思の伝達を図るものです。

第三段階 新しく習得した言語を使って外の社会へと交わる準備が整います。生徒はリズム、イントネーション、意思伝達に欠かせない主たる定型表現を習得します。定型表現とは、必ずしもすべてを理解している訳ではないが記憶しているフレーズや表現のことです。例えば「私は〇〇が欲しい」など。

第四段階 子供は新しい語彙と出会い、自分の使える英語や表現を駆使し、自分の言いたい事を自分で表現しながら生産的な言語段階へと進みます。生徒は英語という言語の法則に一般的理解を示し、より正確にそれを応用する事ができるようになります。これは生徒が英語のネイティブスピーカーになるという意味ではありません。生徒は、文法や語彙を誤って使う事もあれば、発音を間違えてしまうこともあります。そのような間違いは言語学習においてはよくあることです。

これら4つの言語発達段階は、半年から2年かけて起こります。英語学習者の能力は、教室の外でいかに英語と関わるかによって、また生徒の学習意欲やご家庭での言語学習環境の質によって大きく影響されます。

発達の指標として、言語学習者を「初級」「中級」「上級」と評価分類します。

「初級」レベル 母国語において年齢相応の言語能力を持つ子供が、ひとたび英語に出会うと受容的な英語よりの発達を始めます。生徒はこの段階ではまだほとんど英語を話す事はないかもしれませぬ。

「中級」レベル 初期の言語産出（発話活動）がみられます。生徒はなじみのある表現を繰り返し、使いこなせる語彙を増やしながら、英語で単語や表現を組み合わせて使えるようになります。理解力は成長し続けますが、まだ母国語の言葉を交えて英語発話をする事もあります。これはコ

ード切り換え（コードスイッチング）といて、第二言語の習得過程としてはきわめて自然な事です。

「**上級**」レベル 生徒の理解能力はより高度なものに発達します。このレベルでは年相応の英語文法が上達してきます。ただし年齢相応の英語を完全に習得できたという事ではありません。

英語プリスクールで英語を学習している生徒の発達は、以下の4つの一般的なカテゴリーに基づきます：聞く、話す、読む、書くことです。生徒の言語発達は「積極的に聞く事」に基づいています。彼らが受容的に自己を制御すること（身を任せてすべてを受け入れること）で、言語の発話があとからついてきます。生徒の母国語を聞く力は、英語学習にも当てはまります。早期における識字能力の基礎発達は、積極的に聞く事（アクティブリスニング）、社会の中で言語を使う事、言葉によらない意思伝達によって培われます。

「**話す**」では、質問したり、複雑な文法文型に対応して答えたり、意見を述べたりする事が、上級発達の指標となります。研究によれば、母国語での話術発達が第二言語へとそのまま移行するということです。

「**読む**」は、必要性、目的、働きがあって学ぶ事のできる能力です。生徒は読み聞かされたり、他人へ本を読んであげたり、自身のために読んだりしながら読む事の難しさを体得します。親は、子にふさわしいレベルの英語の本を読み聞かせると同時に、母国語でも読み聞かせをして、自分で読む事ができるよう手助けできます。

「**書く**」を習得するためにはいくつかの段階を経ます。第一に、描く事と書く事を区別し始めます。次に文字の形を模すようになり、最終的には特定の意味を持つシンボルを使えるようになり、そして生徒は意味を持たせるために文字を使い分けるようになります。

それぞれの過程の例を含めたチャートがプリスクールオフィスにあります。必要な方には貸し出したします。